

2017年8月29日

第 69 回「保健文化賞」受賞者の決定について

第一生命保険株式会社(社長:稲垣 精二)が主催する第 69 回「保健文化賞」の受賞者が別紙のとおり決定しました。

当社は、創業当時より生命保険業を通じた社会への貢献とともに、社会の健康、保健衛生の向上に努めてきました。保健文化賞は、戦争の傷痕が深く残り、衛生環境が悪化する状況にあった 1950 年に、わが国の保健衛生向上のためにお役に立ちたいと考え、保健衛生の分野におけるご立派な業績と、長年にわたるご労苦に対し「感謝」と「敬意」を捧げるために創設しました。

創設当時は結核や栄養不足など社会的に喫緊の課題である分野でのご活躍を対象としてきましたが、近年では生活習慣病対策、高齢者や障がい者への福祉、海外医療や疾病対策など、その時代におけるさまざまな課題に、継続的に取り組んでこられた方々を顕彰させていただいています。

第 69 回となる本年度は、2017 年2月1日から4月 17 日の期間に募集を行い、団体・個人合わせて 62 件のご応募をいただきました。この度、審査委員による選考のもと、団体9件、個人6名の受賞者が決定しました。これまでの受賞者総数(今回を含む)は、673 団体、個人 347 名、合わせて 1,020 件にのぼります。

贈呈式は本年 10 月に開催し、受賞者には、厚生労働大臣から表彰状、当社からは感謝状とともに賞金(団体 200 万円、個人 100 万円)が贈られます。また、受賞者は贈呈式の翌日、皇居に参内し、天皇皇后両陛下の拝謁を賜る予定です。

以上

主催 第一生命保険株式会社

後援 厚生労働省

朝日新聞厚生文化事業団

NHK厚生文化事業団

第69回保健文化賞受賞者一覧

(別紙)

受賞者名	都道府県	業績
公益財団法人 いばらき腎臓財団	茨城県	移植医療の教育段階からの普及啓発を目的として、学校へ医師、移植経験者を派遣する「いのちの学習会」事業を実施し、児童生徒の理解を深めるとともに、移植医療に関わる医療者向けの研修会等を実施し、移植医療の普及啓発に貢献している。
認定特定非営利活動法人 ジャパンハート	東京都	アジアの途上国の貧困層に対する無償医療提供、養育施設の開設・運営、現地医療者の育成等を行っている。また、途上国における医療支援の機会の創出を目的として日本の医療者の育成を図るなど、多岐にわたる国際貢献をしている。
特定非営利活動法人 女性ネットSaya-Saya	東京都	DV等の暴力被害を受けた女性に対する民間の支援団体として、当事者への危機介入、法的支援、女性の自立を支援するステップハウスや相談室の運営、就労支援及び支援者養成等のきめ細かな支援活動に貢献している。
公益社団法人 全国結核予防婦人団体連絡協議会	東京都	昭和50年以来、行政と住民の架け橋となり、結核の健診奨励、BCGワクチン接種率の向上等、全国組織での結核予防の知識の普及啓発活動を通じて、地域の健康管理に積極的に寄与するとともに、近年では慢性閉塞性肺疾患(COPD)の予防と早期発見のための啓発活動に尽力している。
特定非営利活動法人 アレルギーを考える母の会	神奈川県	アレルギー患者に対する相談活動による適切な医療への橋渡しや、学校等の教職員を対象とした研修会を通じた学校現場での子どもに対する支援の充実など、アレルギー患者が安心して暮らせる環境づくりに貢献している。また、東日本大震災、熊本地震の被災地における支援にも尽力している。
和歌山県難病の子ども家族会	和歌山県	ボランティアの協力のもと、難病の子どもや家族を対象としたリゾートキャンプでの交流会、学習会を開催し、参加者が心身をリフレッシュするとともに、病気や障がいについて理解を深め、相互に支え合う体制づくりに尽力し、病気の子どもや家族が暮らしやすい地域づくりに貢献している。
島根県在宅保健師等の会「ばたんの会」	島根県	豊富な経験を有する保健師等による精神障がい者や難病患者等への訪問活動による地域の見守り体制づくりや、免疫力を高める体操の取組による中高年の身体づくりなど、地域に根ざした保健予防活動を基盤とし、継続的な住民の心と体の健康づくりに貢献している。
一般社団法人 御津医師会	岡山県	夜間診療輪番制、病診連携、限界集落の医療対応、在宅医療連携推進、有事の場合の医師派遣等から成る地域医療を守る相互扶助プログラムを作成、実施した。また、行政、歯科医師会、薬剤師会等の団体、学校及び病院等との連携強化を図り、地域医療の推進に貢献している。
宮崎県食生活改善推進協議会	宮崎県	減塩に配慮した料理のレシピの開発、配布などの食生活改善活動による生活習慣病予防や、子どもの頃からの望ましい食習慣を身につけるための料理教室の開催、郷土料理などの食文化伝承活動を行い、県民の健康増進に大きく貢献している。
小笠原 一夫	群馬県	終末期がん患者の在宅ホスピスケアの診療や、電話相談「がん110番」、がん患者・家族会の設立など、地域包括ケアを見据えた医療・介護・福祉ネットワークづくりなどの社会貢献活動に尽力し、在宅ケアの普及に貢献している。
佐藤 加代子	東京都	管理栄養士として長年にわたり多くの地域及び学校現場での健康づくり、食育推進活動に関わり、科学的視点による分析を行いながら、食生活改善活動の推進に向け、積極的かつ主体的に貢献してきた。
武藤 芳照	東京都	高齢者の骨折・寝たきり・要介護状態の原因となる転倒について、多職種連携による学術研究活動を推進し、転倒予防の社会的認知を高めるとともに、転倒予防に関わる学術図書や普及・啓発図書の企画、制作を推進し、転倒予防の学問、実践分野の確立に貢献した。
宮下 美代子	神奈川県	開業助産師として、長年にわたり医療施設及び保育士、産前産後ヘルパー等の多職種と連携し、授乳期の母親が安心して子育てが出来る環境を整え、母乳育児支援、産後うつ、虐待防止対策等に貢献している。また、母乳育児支援業務等の講演を行うなど、助産師の教育活動にも尽力している。
矢津 剛	福岡県	福岡県京築地区において、在宅療養支援診療所を開設し、末期がん患者や重度寝たきり患者等の在宅療養支援を行うとともに、在宅ケアを支えるためのネットワークづくりとボランティア育成、地域の介護力、看護力の向上に貢献している。
近藤 達郎	長崎県	ダウン症候群等の染色体異常を持つ患者や家族について、様々な分野の専門家の講演や患者・家族による情報共有を行う場として「ダウン症候群トータル医療ケア・フォーラム」を開催するなど、医学・医療福祉の多方面・長期にわたり献身的に活動している。